

SSH米国海外研修③ 研修も終盤です

夏休みに行われた SSH 米国海外研修。今回は、新たにプログラムに加わった薬学部実習と、最終プレゼンテーションの様子をお伝えします。

7月23日：薬学部実習

コンコルディア大学のあるウィスコンシン州の冬は非常に厳しく、大学のキャンパスや食堂、学生寮は全て地下で繋がっています。この日はスタッフに連れられて食堂から薬学部までを地下で移動しました。実習テーマは消毒用アルコールジェルとクリーム調剤です。アルコールジェルの調剤では全員が白衣、実験メガネ、マスク、手袋を身に付け、手の洗い方から指導して頂きました。出来上がったアルコールジェルは透明なのですが、そこに緑やオレンジなどの色をつけるのはアメリカならではのようです。

クリームの調剤では、なぜか机の上にチョコレートクリームやカラフルなハッカ飴、ピーナッツバターなどが並んでいます。今回は乳棒や乳鉢、スパチュラなど器具の操作方法の習得がメインで、お菓子を材料にした模擬クリームを作るとのこと。生徒たちも最初は驚いていましたが、「薬の調剤では誰が調剤しても同じ効果、品質の薬にするための調剤技術がとても重要」との説明に一同納得の様子でした。ちなみにこの模擬クリーム、薬学部の先生から食べないようにとの注意がありましたが、とても甘いチョコミント味だったようです。

7月24日：最終プレゼンテーション

コンコルディア大学滞在中も残りわずか、研修の仕上げは最終プレゼンテーションです。研修では教育学部の先生から、研究の進め方に関する講義を受けました。それを基に生徒たちは、研究を何のために行うか（動機）、どう進めるか（計画）、設備・時間面などで実行可能か（検討）をアメリカ人スタッフと共に話し合い、自分たちの手で実験を行い、発表しました。例えば第1回プレゼンで日本の再生可能エネルギーの現状について発表したグループは、風車の羽の形を工夫して、ウィスコンシン州と千葉のそれぞれで効率的な風車の形を考察しました。また、手賀沼の水質浄化をテーマにした班は、ミシガン湖の外来種の貝を緑茶の中に放置し、水が浄化されるかを調べました。実質5日間、しかも野外実習などを行いながらの非常に限られた時間の中で、うまくできた点もできなかった点もありました。しかし、ゼロから英語のプレゼンを作り上げた経験は、生徒たちの大きな自信になったことでしょう。コンコルディア大学の先生方も高く評価して下さると共に「短期間だったが、生徒たちの英語が上達していくのがよく分かった」とのコメントも頂きました。

次回はいよいよコンコルディア大学を離れ、シカゴの科学館見学です。どうぞお楽しみに！



アルコールジェルの調剤



お菓子で模擬クリーム



最終プレゼンに向けた
ディスカッション